

Part2 2つの「グリーンICT」 社会貢献が利益を生む

ICT自身の省エネ化・CO₂排出削減を図る「グリーン of ICT」と、ICTの活用で環境負荷を軽減する「グリーン by ICT」。そのソリューションにはどのようなものがあるのだろうか。

文 坪田弘樹(本誌)

現代は、これまで物質的な豊かさを追求してきた人類がサステナブル(持続可能な)社会の形成へと舵を切る転換点にあたるといえる。

今や「低炭素社会の実現」は、世界の意思と言ってもいい。加速していくその流れにあって、ICT業界はどのような役割を果たせるのか。そして、そこにはどのようなビジネスチャンスがあるのだろうか。

1つ、重要な指摘がある。

現在、我々が抱える最大の課題は、エネルギー消費を抑えて地球環境を守ることと、経済を発展させるという、相反する2つの活動を、どう両立させ

ていくかということにある。この「経済と環境の両立」という難問について、「ICTはそれを解く鍵になる」と語るのは、グリーンIT推進協議会の調査分析委員会の委員長も務める、富士通・環境本部環境企画統括部長の朽網道徳氏だ。

「ICT業界に関わるあらゆる人・企業が、ソリューションを提供することで温暖化防止、環境保全に貢献することができる。これは、社会貢献をしようとすればするほど、ビジネスもまたうまく回っていくということ。幸運にもICT業界では、社会全体の方向性とビジネスの方向性が一致している」

ICT業界のすべてのプレイヤーは、そうした特異な立場にあるのだ。

グリーンを実現する二本の柱

朽網氏が語っているのは、Part1でも触れた「グリーン by ICT」の視点である。ここで、低炭素社会の実現に向けてICTが果たすべき役割を整理しておくことにしよう。

「グリーンICT」の取り組みは、大きく2つに分けられる(図表2-1)。

1つは、ICT機器やソフトウェア等が消費するエネルギーの削減。つまり、「グリーン of ICT」だ。そしてもう1つが、あらゆる社会活動において消費されるエネルギーをICTの力を活用して削減しようという、より積極的な取り組みを指す「グリーン by ICT」である。

図表2-1 「グリーン of ICT」と「グリーン by ICT」

